

お客様各位

糸魚川信用組合

『いとしんだより No. 63』における文章欠落のお詫び

当組合が、令和2年2月25日に発行した地域情報紙『いとしんだより』No. 63の1面「視点」の記事で、一部の文章を欠落したまま掲載してしまいました。ご多用中にもかかわらず「視点」へ糸魚川市へのご提言のご玉稿をいただきました新潟県糸魚川地域振興局長八木威様に、多大なご迷惑をおかけしたことを衷心よりお詫びいたします。また、「視点」をお読みになった方々にも、八木局長様の貴重な文章の全文をご紹介できなかったことを合わせてお詫びいたします。

文章が欠落したまま掲載されてしまった原因は、当組合での編集作業にあり、印刷を担当した業者ではありません。いただいた電子ファイルの文章をコピーした際、結びの部分の文章を誤って選択しなかったことが原因です。

今回の事象はあってはならないことで、当組合で今後このようなことが発生しないよう、著者の方による校正を必ず行なうようにしてまいりますので、今後も『いとしんだより』のご愛読をよろしく願いいたします。

以下の文章の末尾、下から5行目以降が欠落した文章です。

視点

まちづくりシリーズ No. 63

糸魚川自慢をもっと発信しませんか

新潟県糸魚川地域振興局長 八木 威



糸魚川に来て最初に、糸魚川の地形は「ゼロから三千メートル」と教えていただきました。そして、管内を巡り、海から山への近さを実感しました。海岸線から、谷筋の急流河川に沿って道を登り、急坂を一気に駆け上がると短時間で山間に到達するといった具合です。

糸魚川は、このような急峻な山から深い海に至る地形と地質により、(災害と隣り合わせの面もありますが) 海岸線と内陸を結ぶ交通の要衝となっています。

また、美しい自然景観と豊富な鉱物資源や温泉があり、高品質で豊富な森林資源も育っています。さらに山と海のレジャーや、山・大地・海の幸を五蔵の酒と堪能できる、いわば美食スポットにもなっています。そして、そこに奴奈川姫の神代から、ヒスイとともに、長い歴史を持った神秘とロマンあふれる伝統・文化がしっかりと伝承されています。

こうした地域の宝物を住民が主体となり自分事として地域づくりに活かす努力がこれまでも市内各地で行われています。また、ジオパーク活動として地域の宝物を磨きあげる取り組みも進んでいます。「糸魚川は宝物が詰まった宝箱だ」と私もそう思います。

昨年、県が実施した県の魅力についてのアンケートでは、上越地域の住民が居住地を魅力的と感じている割合が35.3%、県外に魅力を勧めている割合が31.7%といずれも県内で一番低い結果でした。また、69.3%が魅力を県外に発信する必要があるとしながら、魅力の発信が十分行われているとの回答は5.3%に過ぎませんでした。この結果から言えることは、糸魚川でも、一人ひとりにもっと地域の宝物の魅力に気づいてもらい、さらにその魅力をもっともっと外に発信していく必要があるということです。

糸魚川においても、少子高齢化、人口減少が進む中、まちの賑わいを取り戻し、地域を活性化するため、交流人口の拡大に取り組んでいます。その中で、いかに地域の宝物の魅力を知ってもらうか、さらに興味を持ってその土地を訪れてもらうか、その情報を受け止めてもらえるようにどう発信していくか、が古くて新しい課題です。これまでも様々なPRがなされていますが、最近では、SNSや口コミの現地情報を参考にすることが多いと聞きます。地元の人を感じる具体的な魅力と熱心な自慢話は説得力がある効果的な発信となります。まちづくりの主役は住民一人ひとりであり、みんなで糸魚川の魅力を再発見し、自慢話として発信して盛り上げませんか。

シティプロモーション「石のまち糸魚川」は自慢の切り口も示してくれています。駅北広場キターレも完成間近であり、大火からの復興とまちの自慢を一緒に発信することも良いと思います。新潟の魅力発信のため県開催の「#新潟のコメジルシ」フォトコンテストへの投稿も活用していただくと幸いです。

以上